

令和6年度タウンミーティング懇談録（桜会場）

日時：令和6年6月15日（土） 14:00～15:30

場所：桜総合体育館 会議室

参加者：市長 ほか 参加者 19名

<懇談録>

○参加者1

毎年お世話になっております。

●市長

こちらこそ、毎年最前列でありがとうございます。

○参加者1

今年もよろしくお願いします。今年で6回目の参加で、また今年も妻木金田線の開通についてお願いしたく質問しました。私もちょっと意見を言いたいの、つくば市としても世の中としてもSDGsとか、CO2削減とかね、ライフアンドワークバランスとか言って、結局時間とか資源の削減とか、そういうのもあって、結局つくば市って住んでみて分かったんですが、自動車がやっぱマストですよ。公共交通機関って結構厳しい。そういう時にやっぱり道路があることで、やっぱりいろんな意味で時間も短縮できるし、ガソリンも減らすことができる。ということでやはり、道路の開通をお願いします。

●市長

はい。毎年本当にありがとうございます。一つ一つ進めておりまして、ちょっとこれまでの取組をお話ししますと、去年この場所ですいに何十年間地域に入れなかったのに説明会をすることができましたというお話をさせていただいたと思うんですね。その後、私も実は妻木地区に何度も中に入ってですね、区長さんであったり、地権者の方とお話をしてきました。そして、今年の予算には、測定の予算をもう議会で計上して取ってあります。その測量調査をすることについては、皆さんの同意をいただきましたので、これをまず、じゃあ一体どこ通るのって分からないですよ。当然分からない方というか、我々も正確に見るためには、当然、きちんと測量をして、どの家がどんなふうにかかるのかということをお示しをしなくちゃいけないわけですよ。その上でここに通ったら、地区が

こういうふうになるからじゃあここはこんなふうに繋げるようにしようとか、そういう絵姿を地域の皆さんにもお示しをする必要があるわけですね。ですので、今まで、測量なんてとんでもないという状況だったんですが、そこまで前進しました。これからですね、この測量を終えたら、大体こういうふうになって、地域の皆さんが御心配されてることも、例えばこんな解決策があるんじゃないですかみたいなお話を、またしていくというステップになると思いますので、この予算を取ったことは、この30数年の中では、かなりの大きな前進だと私は思っていますので、いろいろな御懸念等もちゃんと一つ一つ解消しながら、実現に向けてですね、しっかりと取り組んでいきたいと思っていますので、ぜひまた来年、同じ場所に座っていただいてですね、測量終わってこういうふうな感じで、こんな感じになりましたみたいな進捗が御報告できるといいなと思っています。

○参加者1

はい。私も常々通りながら、未来のあしたが見えるまちって言いながら、全然見えてないじゃないかって、怒りながら運転してるんですけど、見守っております。

●市長

もう本当にですね、いろんな下準備をしながらようやくここまで、いろんなアプローチをしてですね、ここに至っていますので、はい。ここでお約束してるように、着実に前には進めていっていますので、はい。また、どんどん進捗を御報告できるようにと思っていますので。

○参加者1

はい、期待して、あと見守って、協力できたらいいなと、協力していきたいと思っていますので。

●市長

ありがとうございます。ぜひ、よろしくお願いします。

○参加者1

ありがとうございました。

○参加者 2

最初に連絡をしたのが、23 年度の 23 年の 2 月の時の記録が私のスマホのほうに残っておりますので市役所の方に問い合わせをしたのは、その頃だと思います。そこからしばらく経ちまして、昨年 12 月のクリスマスの頃に、市役所で陸上競技場についてのお話があった時に出席しまして、お手紙と一緒に市長さんともちょっとお話をさせていただいた、そういう機会をいただきました。その時に、私は不安に思っていることがたくさんあると、25 万以上いる市民の中の方の 1 人なんですけれども、すごく心配で、自分のお家がどうなっちゃうのかとか、揺れがどうなっちゃうのか、そういうふうな、ちっちゃいことなんですけれども、個人的には心配ですということをお伝えしました。その時市長さんは、それをないがしろにはしないですよっていうふうにお約束いただいたかと思うんですが、その後、市役所の方と何度も連絡を取ったんですが、1 度も説明会はありません。そして、お伝えする内容がありませんというふうな回答しかなくて、私はこちらが心配に思っていることを聞き取って欲しいっていうことをお願いしたはずなんですけど、それを聞いていただかないと不安です。そして、新聞発表が先日あったかと思うんですけれども、その前にやっていただけたらよかったんじゃないかなって思っております。心配をしているのは、私のわがままなのかもしれないと思いますが、ないがしろにされるべき内容ではないのかなと思っております。御回答とともに、もう開催の期日を決めていただきたいと思います。お願いいたします。

●市長

はい、ありがとうございます。すみません、御心配をおかけして、申し訳ないと思いますが、個別に何か私としては聞き取りをさせていただく方がいいんじゃないかなとはちょっと思っているんですけども。今どういう状況かという、確かに進捗としては、まだないんですね。それはなぜかという、今年解体、体育館は、設計を 1 年でして、解体を来年にしていくということで、本体の方は 2 年かけて設計をしていくという状況なんです。その後、2 年かけて工事をしていくんですけども、ので、何ていうんでしょう、説明会っていうと市でこういうふうにやりますとか、こういうことっていうふうになるんですが、まだその設計ができてないので、今の段階でこうなりますっていうのは、実際に設計をすると、例えば道路は大体こういうふうに入ってくるかなとか、道路工事車両がこうかなとかそういうふうに、少し見えてくるので、そういうものが少しでもできれば、当然まず説明会をすぐ開きたいと思っておりますが、担当が言ってるのも間違っではなくて、説明会をやるような内容は無いんですね。ただ、今のような御不安をもうちょっと個別にきちんと聞き取るというのは、また別の意味で必要だと

思っていますので。すみません、それはちょっと正直私は、できる、できていると、そのいろいろ地域の皆さんから個別にいろんなお声を聞いているので、そういうのは、ある程度の聞き取りはできているんじゃないかと思っていたんですが、今のお話ですと、そういうやりとりってことは、ちょっと急ぎ確認をしてですね。ただ、説明会じゃなくてもいいですか、そういう意味で。説明会だと、なんか逆に御発言をしにくいようなところもあるんじゃないかみたいなことを、ちょっと考えてたりもしたんですけど、

○参加者 2

発言してもよろしいでしょうか。

●市長

はい、どうぞ。お願いします。

○参加者 2

説明会では言えないっていうことはもう前回お伝えしておりまして、なので、こちらが不安に思っていることを聞き取ってくださいっていうお願いをしていて、その時了承していただいたと、私の勘違いでなければ思っていたんです。

●市長

私もそう思っていました。

○参加者 2

ただ市の役所の方の対応は全く変わらず、23 年の 2 月からの対応と何も変わらず、もちろん分かってるんです、何も決まっていってという御説明のとおりで嘘じゃないと思うんですが、私が心配なのは自分の建てた家に、もしもすごい騒音で、こんなふうになっちゃったらっていうときの保証はどうなのでしょう。揺れで家にひびが入ってしまった時はどうしてくれるのでしょうか。せっかくローンを払っているのに、無駄になってしまうようなことがあっては嫌なんです。本当に死活問題でして、ケチケチしてると思われたら申し訳ないんですが、嫌なんです。

●市長

いえいえ、当然です、当然です。一般論でまずお話をしちゃうと、騒音はもちろん最小限にしますが、杭打ちの工事は、杭打ちはないかなこれだと、ないですね。振動がかかったりする際には、周辺のお宅というのは、事前に調査をさせて

いただくんですね。工事によってヒビとかの影響がないかってのは、事後も調査をしてというようなことをやりますので、そういうことは、まず御安心していただいて。ただ、今多分具体的にその工事の説明とかができないので、ちょっとそういう状況になっちゃってるのかなと思うんですが、多分、担当もそこまでのところであれば課題感としては、把握をしているような気がするんですが、そうでもないですかね。

○参加者 2

その旨は伝えていますが、担当の方に、そういう意味でっていうことは何度も言ってるんですが、伝わってなくて。

●市長

でも多分その御不安は担当も理解してると思うんです。ただ、それに対して、こうしますっていうのが、ちょっとまだ絵面が全然できてないので、ちょっとまだ具体的にお話ができないのかなという感じなのかというふうに私は今理解していて、段階としては。担当も放っておいているつもりはないんじゃないかなと思うんですけど。この設計が進めば、じゃあ、ちょっとこの頃から工事やっていきますから、その前にちょっと御自宅の中入らせていただいて、その写真を全部取ったりとか、そういう相談を少しさせていただくこととなると思うんです、プロセスとしては。

○参加者 2

その回答を、私はずっともう待っているわけで、その対応は遅くはないでしょうか。半年前にお願いしてしまして、23 年の 2 月からお願いしていると思います。

●市長

こういうことになると思いますよみたいなことが担当から伝わってないということですよね？

○参加者 2

何も言うことはありませんという対応です。

●市長

すみません、それは良くないですね。ちょっとすみません、私もそこはそういう個別にできていると思っていたので、これが本当のタウンミーティング必要

なことなんですけど。すぐ週明けに、ちょっと状況確認して御連絡差し上げるようにしますので。多分、おおよそ同じような回答にはなるとは思うんですが、その補償の関係の解決方法がどういうふうになるかというのを、個別具体というよりはまず大きな方向性としてこういうふうになるだろうというような道筋をお話できればいいということですね。

○参加者 2

個人的にでいいので、個人的でというのでしたら個人的に家に来ていただいで大丈夫ですので話を聞いていただきたいです。

●市長

はい。そういう方向にさせたいと思いますので。すみません、ちょっとよく私も把握してなくて申し訳ないです。よく伝えておきます。ありがとうございました。

○参加者 3

すみません、何回も出席して来ましたが、今日は晴れていましたけども、雨が降ったらば、どうしようかなと。ここへ来るのに、今日は電動アシストで来させてもらいました。そして、今日雨だったらば、この発言もできないかなと。バスとタクシーを使う、でここへ来るようなことも考えていましたので、そして先ほどタクシー券のと、バスの割り振りということで、再度お願いに行きましたんで。タクシー券は、今3枚、前にお話した時に、もっと増やして欲しいと。バスの件は、東京だとシルバーパスというものがあまして、高齢者に、パスですから、無料なのかな。その時私もね、高齢者じゃなかったんでわかんないんですけど。今自分で高齢者になって、シルバーパスみたいなものがあれば、割引じゃなくて無料だといいなと思いましたんで、あえてお願いに来ました。タクシー券は、枚数が3枚ということが、この間は5枚とお話しをしたと思うんですが、できるだけ4枚、5枚で迎えが来ると、3枚だと2枚になってしまう。2枚だと2キロくらいなんです。3枚が4枚になっても、そんなに変わらないと思うんですけど、それでできるだけ増えれば、金額は今までどおり、来年予算が付けばもっと欲しいんですけど、それでお願いに来ました。よろしく願いいたします。

●市長

はい。いや御指摘ごもっともだと思っていまして、迎車で1枚使っちゃうわけですよ。

○参加者 3

そうですね。

●市長

だから、それを考えると、やっぱり3枚じゃ厳しいよねっていうのは、話をしています。来年度は、来年度と本当は言わずに、変えられればいいんですけど、もうちょっと増やそうと、少なくとも4枚にはしようと思って、それを5枚にするのか、4枚にするのかは、ちょっと考えなくちゃいけないなとは思ってるんですが。少なくとも、確かに2枚、要は迎車で1枚使っちゃって残り2枚だと、行ける範囲かなり狭くなってしまいますので、御提案のような形で、今増やす議論をしていますので、これは必ず4枚にはしたいと思っています。5枚にできるかはちょっと、ちょっと議論の余地があってですね。私も、いや使ってもらったらいいいんじゃないのって思ってるんですけど、なかなかいろんなデータを見ると、どうなのかみたいなのところはあるみたいなので、もうちょっとそこは議論詰めていきますが、少なくとも4枚にはしたいと思っています。はい、パスもですね、そうなんですよね、高齢者の方のパスね。ちょっと財政力が余りにも東京と違うので、東京と同じことがなかなかすぐはできないんですが、公共交通を利用を促進するということは、すごく重要なことですので、それをどういう形でできるのかと。

○参加者 3

自分がその年になって初めて考えさせられました。

●市長

そうですね。バスもね、当然、公共交通ってやっぱり皆さんの移動の大きな手段で、できるだけ使っていただいて、自転車とバスを例えば組み合わせていただくとかですね、そういうことを市としても考えているんですけども、なかなか高齢者、もちろんつくバスはね割引がありますけど、関鉄の方について、一体どうことができるかというのは、ちょっと考えなくちゃいけないなと。考えなくちゃいけないんですけど、ちょっとちゃんと考えてみようと思います。試算をしてですね、どれぐらいの方が使っていて、正直ちょっと無料は、ちょっとこれは厳しいと思います。ちょっと多分、相当厳しいと思いますが、一体どういう形のものができるのかというのを、いろんな数字を試算はしてみる価値はあるだろうなと思っていますので、ちょっと御意見いただいたことを踏まえて、一度交通の中で、他の自治体の事例なんかも見ながらですね、どんなことができるかち

よっと考えてみたいと思います。

○参加者 3

よろしくお願いいたします。

●市長

まずは、まずは試算というか、オプションを考えてみたいと思います。ありがとうございます。

○参加者 4

並木の参加者 4 と言います。

●市長

いつもありがとうございます。

○参加者 4

はい。1 年になろうとしてて、やっと 1 年生の意見ということで、今日は言わせていただきたいと思います。温暖化が先ほどもありましたけれども、もう大変な問題なのに、戦争を起こしたりして、もう何だろうこれはという、もう非常に絶望的で、国からのものはっきり言って地方に丸投げで、こんなことで、どうすんだというふうな思いをしています。とはいえ、科学で相当対応できるものですので、ぜひつくばで頑張って欲しいなというところがあります。そのつくばについても、先ほどあったように気候市民会議で、今日はおっしゃらなかったけれども、そこで出た提案はすべて対応すると、大変力強いことを言っていたいて…

●市長

今日も言いました。ロードマップです、これです。

○参加者 4

今後もね、市民や外部に対して、このことをしっかりと訴えて、大変な問題なんで訴えていっていただきたいと思います。本当これについては、2 つの点で私は高く評価してます。1 つは何かって言うと、温暖化対策全体に関わる問題である。全体に関わる問題であって、それをやったということ。それからもう 1 つは、外部の機関、環境研ですけども主には、そこと一緒にやったというところ。この 2 つを特に重視してます。というのは何でかって言うと逆があるからです。これ

から逆の話をするんですけども、気になってるところは何かって言うと、逆で、つくば市の温暖化対策はですね、どうも木を見て森を見ずっていうところが、私の報告からすると、受けてる報告からするとありまして。市役所だけでできる、排出量としてはですけど、小さい施策を一生懸命やっていって、そこに偏っている印象があります。でも本当に大事なのは、200万トンから100万トンにする、排出量をね。大きく減らすところにあるはずで、その全体をやっぱり見てやっていかなきゃいけない。気候市民会議の対応として、小さな取組を増やしましょうってことになってしまったら、それはあまり意味がない、それだけであつたら意味はなくて。やっぱり大きいところを減らすっていうところが大事になると思うんですね。ですので、外向けにはこの今のおっしゃり方ですごく良いと思うんです。アピールだから。だけれども、市の中で市役所の中では、つくば市の総量の削減が大事なんだよと。だから困難だけれども、重要な目標である、そのところをやるために、外部との対応、これも外部との連携も今ひとつやってるようになりあまりよく見えなくて、そういったところも含めて、そういったところから目を背けないでやってくれと、そういうふうに指示を出していただきたいなと思うところです。あともう1つ、あとこれおまけですけども、人を増やしていただいたようで、ありがとうございます。これ、まだまだ人足りないと思うので、必要な人をちゃんと配置していただきたいと思います。

●市長

はい、ありがとうございます。普段もうちょっと辛口なのに今日はありがとうございます。はい、いつもそういう思いを伝えていただいてありがたいと思ってますし、市役所の外でも中でも、本当にみんなでこれやっていかないと駄目だよという話をしていますし。どうしても、この間も実はそのいわゆる全部長たちもみんな集めて、そこでこの話をしたんですね。なんか、環境部門に協力するとかそういう発想をやめて欲しいという話をしました。もう、すべての部署に関わってくるし、すべての部署で取り組んでいかないと絶対達成しない目標なんだから、もう自分たちの目標だという思いでやりましょうと、そういう話をしたところなんですね。研究機関との協力なども外部機関ともですね、確かにもっとできると思っています。今までその軸が無かったんですけども、さっきのスーパーシティのを進めているつくばスマートシティ協議会というのがあるんですが、そこに今度新しく分科会で、グリーン分科会というのを作りました。ここには研究機関はもちろん入りますけれども、市役所は事務局で、ここに民間企業の皆さんも入ってもらって、いろんなもう野心的な取組を、中で提案をしてもらって、そこで、これいこうとなったものは、とにかくまずやってみると。その中には、かなりちょっとスケールの大きな話も、これからどんどん出てくると思っていま

すので、そういう取組を通じて、まさにテクノロジーで解決する部分かなりあるという話ありましたけど、それを実践をする場所としてやっていきたいなと思ってますので、ぜひこれからもですね、バックアップをいただければと思ってます。職員も本当に手厚く環境部門に対して今していってますので、こういうことを行政としてね、役目を果たしながら取り組んでいきたいと思います。よろしいでしょうか。

○参加者 4

今スマートシティとの連携で、非常にいいと思いました。よろしくお願いします。あと、ただ、ただっていうか、またすみませんね、意識の高い市民が多いということもありますので、先ほどの応募が多かったということですね。市民との連携もこの間洞峰で協議会っていう話がありましたけれども、あれみたいな、あるいは先ほどたまり場ってのがありましたけど環境たまり場とか、そういったようなことをやっていただけると市民も関わってこれる、民間の企業だけじゃなくてね、市民も関われるような形になってくるといいなと思いますので、よろしくお願いします。

●市長

はい、みんなでやっていきますのでよろしくお願いします。ありがとうございます。

○参加者 5

こんにちは。僕は東地区に住んでます参加者 5 と申します。僕は今、経営学の大学に実際通ってるんですけども、実際この経営学に通ってるっていう上で、僕としても、このつくば市で育った若者として、やっぱり事業をやりたいなっていう願望をすごい抱いていて、それこそ1ヶ月前頃から、実際僕も塾を経営したいなと、教育にすごい力を入れてるつくば市のいろいろヒントだったりとか、自分の気づきだったりってのいかしたいっていう思いがすごいあって。実際事業計画も立てていろんな方々に協力を仰いでいる段階なんですけど…

●市長

学生さんということですね、現役の学生？

○参加者 5

現役の学生ですね。大学3年生でやってまして、その中で、やっぱり自分の中で

はすごいアイデアがあつて、いろんな方々、それこそ学校の先生だったり、昨日それこそ昨日なんですけども、実際僕の中学校のときの先生に、今の教育の現状だったり、それこそ先生目線の先生から見た現状と、僕が実際に学生だった時の現状を踏まえて、いろいろディスカッションとかをしたんですけども。やっぱり今の社会において、むしろグループワークっていうのが、今後すごい重要になってくるなと僕は思つてまして、それこそ実際就活もしてる、事業を考えるけど就活もしてる身として、やっぱり社会に出るのに必要な能力っていうのを養わなきゃいけない。でもその一方で、やはりつくば市の教育水準が高いからこそ、どうしても受験っていうのを集中してしまう。今は勉強っていうのを受験の手段として用いてしまつてる学生がどうも多いなと、僕自身が学生の中から、今の現状を踏まえた上で考えまして、そのような事業を行いたって僕は意思はあるんですけども、一方で資金としてどうしても足りなくて、やりたいことが現実的にできないところがあつて。だからこそつくば市で、今教育として子供たちを育てていく。それで実際に育ってきた1人として、いろんな多様なことをやってみたってチャレンジャー精神っていうのが、比較的周りの子、同世代に比べて自分は高いって自覚をしてるとともに、やっぱりそういう子が出た時の、フォローバックをする必要があるのかなと僕思いました。やっぱり教育の今、こういう将来に向けた子供たちのって教育がメインな一方で、どうしてもその子供たちの将来、実際その将来、ぶつかるタイミングでのフォローバックが僕は欲しいなと。一つくば市民として事業をやりたいっていう…

●市長

そうすると、質問の趣旨としては、起業をする際の資金とかそのサポートがメインということですね。

○参加者 5

そうですね。

●市長

教育分野に限らずに、ということですかね、話としてはね。

○参加者 5

そうですね。

●市長

はい。わかりました。あ、いいですか、大体それぐらいで。はい、いやすごく

ね、そうやって新しいチャレンジをしてくれるのは素晴らしいことなので、つくば市としては、もう全面的に応援をしたいと思ってますね。今、その起業の支援でいうと、つくば市は、つくばスタートアップパークというのがありまして、行ったことありますか？

○参加者 5

ないですね。

●市長

そうですね。毎週木曜日に、夕方、吾妻小学校の隣にあるつくばスタートアップパークという場所で、ものすごいいろんな種類の起業関係のイベントをやっています。今、スタートアップ関係では、スタートアップってその新しい起業ですね、関係では間違いなく全国でも注目をされていますので。そこに、特に研究機関発の事業が多いですけど、別にそれに限ってるわけじゃないので、起業したい学生さんとかがそこに来て、いろんな相談をできるような仕組みができてます。例えばこういう資金があるかもねとか、こういうのあるかもねなんていう御案内もそこでしてるので、まずお勧めするのは、スタートアップパークに行ってもらって、周りにどんな人たちがいて、学生さんたちも今、学生で起業したような起業家たちもいますし、そういうところで、つくばのコミュニティがどうなってるかとか、情報をその専門的な相談、資金面の相談とかもできたり、立ち上げの登記とかそういうこともね、教えてくれる人たちも順繰りいますので、まずそこに顔を出してですね、そういうものがあるよというのを、まず知ってもらいたいかなと思ってます。そうするといろんな繋がりが出てくると思いますし、じゃあそれで事業やるんだったら、それを融資なのか、それとも出資してもらうのかとかいろんな選択肢が事業やる上であるわけですね、そういう事業のいろんなものをまずそこで学んでいってもらうのがいいかなと思っていますので、つくばスタートアップパークで検索をしてもらえれば、かなりいろんなことをやっていますので。

○参加者 5

分かりました。

●市長

先週も、先週じゃないか、先週か。ルクセンブルクから皇太子殿下がいらしたんですけど、スタートアップパークに来てもらって、そこでは、今ね、環境の話ありましたけども、まさに新しい物質・材料研究機構の研究者、研究成果の断熱

材についてのプレゼンを皇太子殿下の前でもらって、そこでもルクセンブルクとつくばの起業家たちがいろんな意見交換をして行き来をするみたいなことをやっています。本当にいろんな人たちがいますので、ぜひそういうところで揉まれてですね、いい事業をつくっていただければと思います。お待ちしております。

○参加者 5

ありがとうございます。頑張ります。

○秘書課長補佐

市長、すみません、水曜日、毎週水曜日。

●市長

ごめんさない、毎週水曜日。木曜日は東京だった。水曜日です、はい。

○参加者 5

分かりました。

○参加者 6

こんにちは、参加者 6 です。私はスポーツチームの代表をしています。今小学校とか中学校の体育館開放について、ちょっとお聞きしたいことがあります。今つくば市内の体育館を取るのって、ものすごい大変なんですよ。去年とかすごい大荒れで…

●市長

去年は本当酷かったですよね、すみません。

○参加者 6

今年もじゃあ改善されたかって言ったら、改善されてません。って言うのも、私全部調べたんです。後で見て欲しいんですけど、どのチームがどれぐらい取ってるかっていうのを調べてみたんですね。取ってるチームは7か所、週7回とか取ってたりしてます。うちの隣のチームがAとBとします、別のチームです、隔週で使います。6月が切り換えなので、今2回ほど活動しました。そしたらですね、AとBは同じチームです。おかしくないですか言ったら、いや、もう1つのチームは、取れないんでやりました。もちろん部活がないので今中学生たち

が、だからもちろんその活動駄目とか言ってるわけではなくって、でも結局同じチームですよって。

●市長

それ、イニシャル（伏字）で始まる場所ですか、また違いますか。

○参加者 6

（伏字）ですね。私たちの後のチーム、2回来てません。で、Aチームが使ってます。

●市長

なるほど。

○参加者 6

おかしくないですか。

●市長

おかしいですよ。それはおかしいです。おかしい、おかしい。

○参加者 6

空いてるんだったら私たちのチームに貸してくださいってお願いしたんです。なんですけど、Aチームの方は、じゃあ連絡を取って、じゃあ使わないときは借りたらいんじゃないですかってことで。待ってました体育館で、来るかなってみんなと。来ませんでした。で、9時に隣のAチームの方に連絡先交換しようと思って待ってたんですけど、来ないんで連絡先教えてもらえませんかって聞いたんです。AとCは繋がってるんで。まずAチームは、うちがいたんで練習できなかったって文句まず言われたんです。いやいやそういうことじゃなくて、空いてたら貸してくださいって言いましたよね。で、Cチームに連絡を取ってもらったら、うちとは連絡したくないって言われて。市役所の方にも先週伺って、状況説明とまた来週行きます。どうやらABCは繋がってるってことが分かってきました。

●市長

あのですね、どうぞ続けてください。

○参加者 6

なので、つくば市の方とかで、公平についていうことを言ってるんですが、つくば市にとっての公平とは何かな。あそこの入口のスポーツ振興課の障害者スポーツにも、日常的に、当たり前障害があってもスポーツができるっていうのを掲げてるんですが、これはどういうことでしょうか。

●市長

あまりこういうことを言いたくはないんですが、実はですね、数年前から一部のチームが極めて良くない動きをしていました。2年前の調整会議で、余りにもひどかったので、ルールを変更をして、その極端な取り方とか、そういういろいろあと実際使っていないとか、そういうことに対して、制約をかけていくようなことを試験的に始めていて。また今年ちょっとルールを変えてですね、運用をしているので、そういう御報告をいただけることは大変ありがたいです。申し訳ないんですけども、そういう現場になってしまってるのは。ただ、まさにそういうことを改善しないと、公平にとか、真面目にやろうとしてる人たちがやっぱり害を被ってしまう。スポーツやる上で、もってのほかだろうと私は思っていますので、そんなインチキをするんだったら、やる資格ないと思うんです、私はね、そういう人たちは。だから、みんなそれぞれが今までは調整会議で本当にお互いある程度譲り合いながら、じゃあこういう調整しようねっていうことをやってくれていたのに、全く関係ない理屈で、ちょっと何チームか、まあ複数チームですね、名前も把握してますけれども、そういう挙動をしてるチームがあるってのは、これはもうスポーツやる上で非常に嘆かわしいことだと思っています。私自身スポーツで育ってきた人間ですし、そういうことをやらないというのが本来のスポーツの精神だと思っていますので、極めて不適切だと思います。ですので、今日伺ったお話をですね、ちょっと状況を確認して、もう実際こういうふうになってるみたいで、今回ルールにちょっと抜き打ちでチェックに行くこととかも入れてますので、そういうふうにして、実態がなければ、もうそういうところの団体取り消していくとか、少し強い手段に出ないと、どうにもならないだろうと思っていますし。本当に地域で長年ですね、いろいろ頑張ってきてくれた人たちが取れなくなってることもありますし、そういうことも含めて、今日お話だけたことをですね、また踏まえて、こういう御意見があったよということで対応をして、本当なんとか、今までだったら、話し合いとか、モラルとか、常識という言葉で、ある程度話し合いがついてたのが、本当に数年前からそういう強硬な手段に出る、半ば脅迫じみた行為が行われてるということをもってルール変えて来ましたので、多分取れる枠は相当それで減ったんです。今まではもう、そういう前提じゃなくめっちゃくちゃたくさん取れてたんですけど、7つておっ

しゃいましたけど、それでも多分相当いろんなやり方をして、7になっているんだと思いますが、ちょっと実態をぜひ、もうお話していただいたということです。私も担当から話を聞いてですね、改善に努めたいと。決してつくば市が目指すスポーツの形ではないです、それは。私もそれについては非常に怒りを覚えていますし、改善を、まあ本当たちごっこみたいなところはあるんですけど、それをしっかりしていこうと思っています。御迷惑をおかけしております。

○参加者 6

よろしくお願いします。ありがとうございます。

○参加者 7

本日ありがとうございます。1点質問ですけど、つくば市が主体になって行う、いわゆる自治体ライドシェアの導入に関しまして、五十嵐市長のお考え、今後に向けた展望についてお伺いしたいと思います。と言いますのも、あのエリアと時間帯を限定して、一般のドライバー、我々ですけど、が自家用車を用いて客を運ぶ実証実験を、つくば、牛久、あと土浦ともう一つの4自治体が連携して、来年1月から実施する計画が進められています。いわゆる自治体ライドシェアの導入の可能性について、実証実験を行うわけですけども、つくば市では、私が住んでいます、ちょっと公共交通の課題がある桜ニュータウンと観光客が増える筑波山付近で実施するという計画です。桜ニュータウンでは、つくば駅までの足の確保を望む、通勤通学客、あるいは高齢者のニーズが高いことから、実施地区に選択していただいたと思っておりまして、つくタクの運行していない朝と晩の時間帯に限ったライドシェアの実施が見込まれています。住民としましてもその実証実験自体は歓迎すべきことと思ってますし、今後ドライバーの登録をはじめ、必要な協力はしていきたいというふうに考えています。今後、実施時間帯、あるいは運賃とか、ドライバーの登録方法については、つくば市の公共交通活性化協議会とか、そういうところでこれから協議されることになりますんで、検討経過をしっかりと見守りたいというふうに思っているところです。ただ運賃としましては、今、国の法律が緩和されてタクシー運賃が8割程度まで、引き上げてもいいということになってしまっています。これでは利用者として、通勤通学とかで毎日使うにはとてもじゃないけど継続利用に繋がらないので、運賃に関して、ぜひ公共交通のバス料金の2倍程度ぐらいに抑えていただきたいなというふうに考えてるところです。そんなこともありまして、つくば市への自治体ライドシェアの導入を積極的に進めていく方向なのかどうか、五十嵐市長のお考えとか、今後に向けた展望についてお話いただければと思います。よろしくお願いします。

いします。

●市長

はい、ありがとうございます。どこから話すといいかな。すごく、すごくいろいろあるんですけど、できるだけコンパクトにお話をしますけども、簡単に言うと、公共交通がさっきお話ししたように、2024 年問題で、バス事業者タクシー事業者の残業規制がめちゃくちゃ厳しくなったので、ドライバーはもう足りません。タクシー会社は足りてるって言うんですけど、足りてないですね、全国で。全国の首長が市長が、もうこのままだと地域の公共交通は崩壊すると言っています。実際、ほぼ崩壊状態のところあれば、私はつくば市は本当にギリギリだと思ってます。実際桜ニュータウンなんかは御迷惑をおかけしていて、もう走れないということでしたので、それを様々、その中で桜ニュータウンの皆さんは御自分たちで、いろいろ工夫をして、運送をしていただいているということがありがたく思ってます。私の大きなこのライドシェアの考え方は、もう今の、旅客運送法っていうのがあるんですけど、その何かパッチワーク継ぎはぎとかの規制緩和じゃ対応できるものじゃないと思っていますので、私は、新法を新しく作らなくちゃいけないと思っています。今桜ニュータウンも、時間帯の制限がこうとかですね、そもそも何で桜ニュータウンしかできないかという、その交通空白地帯じゃないといけないっていう国の強い縛りがあってですね、それがあから桜ニュータウンは、バスは今そういうことで無くなってしまっただけで、すごい厳しい条件で初めて交通空白地帯。交通空白地帯ってのは、タクシーで 30 分かけてもいけない場所っていう所なんですね。そんな場所なかなか無いんです。でも、タクシーで 30 分で、それがあから交通空白地帯じゃないよねって、逆に言うかって話で、やっぱおかしい定義なんです。私は国の会議にも呼ばれて、こういう話を全く同じ話をしました。もう移動の足がない、移動の足がなければ、皆さん住み慣れた地域から、やっぱりどうしても駅前とかに行かなくちゃいけなくなると、私も直接聞きますいろんな地区の方から、やっぱり便利な場所に住まないで老後不安だと。それがライドシェアをちゃんと入れることによって、地域の方がですね、住み慣れたところで住み続けることができるんじゃないですかと話をしていますし、さらに言うと今の 8 割というのもおかしい話で、そんなにまで、既存の状況に配慮し過ぎなんじゃない、これは国会の中でもかなりそういう意見が出ていますので、柔軟に今技術がありますから、需要がない時間だったら安くして、高い時間は高くするとか、そういうことも簡単にできる時代になってるわけですから、新しい技術も使って、いろんな人たちがそこに参入をして、地域の皆さんもやってというような形を作りたい。それが今回のドライバーバンクという新しい仕組みでして、これは自治体ライドシェアという

かですね、ちょっと細かい法律論なんですけども、その自治体がうまく主導をしてですね、そこでまずは事業者さんにプラットフォームを作ってもらって、そこで登録をしてもらって、1種免許の方、要するに営業の免許じゃない方たちを育成をしっかりしてやっていただくと。だんだん上手くなるというか、もう慣れてきて、もっとやりたいなと思ってくださる方には、2種免許を取っていただく支援をしてですね、何なら地元のタクシー会社さんだったり、それこそ関鉄さんのようなところで働いていただいて、地域の公共交通を支えていただきたいと。そういう思いで作った、かなり全国でも、そういうドライバーバンクというような仕組みやっていると他にはありませんので、国からも注目をしてもらって補助事業の補助金もついたんで、本当はもう少し広域でやってみたいんですが、でもやっぱり桜ニュータウンの皆さんがですね、もう既にやられてることを、上手く事業化できればと思っていますので、1度もう既に総合交通と意見交換というか、やらせていただいている報告は受けていますが、今後、今年中に制度を設計するというのがまず、国からの予算の条件ですので、皆さんとしっかり対話しながら、説明会などもやってですね、積み重ねていって、本当に地域の公共交通というか、移動の新しいモデルを皆さんと一緒に作りたいと思っています。ぜひ御協力をいただければありがたいと思っています。

○参加者 7

よろしくお願いします。

●市長

はい、心強いです。よろしくお願いします。ありがとうございます。

○参加者 8

去年の今頃もちちらで言った内容と同じなんで申し訳ないんですけども、8050 問題で、全然進歩していなくて、80 歳の人たちっていうのは、路上で野垂れ死ぬっていうことがないようなサポート体制ではあると、そういうふうに思いまして、安心してらんですが、50 代の人たちですけど、皆さんアドレナリンたっぷりつくば市にいらっしゃる方たちっていうのは、もうバンバン活動されてますね。でも、チームプレーが割と苦手で、自分のペースで行動する、40、50 代ですね、そういう 2 人の子供を抱えています。自分のペースがあるんだと思います。それで、いろいろ努力もしたり勉強もしたりしてるんですけど、上手くいっていないという結果なんですね。まあ、私ももうだんだん年取っていきますし、まあいいやとかいう感じで、任せておこうという感じになって、ただ心配

なところは、このつくば市で生きていけるでしょうか、それともすなわち野垂れ死ぬような、そんな感じになってるんでしょうかという、その展望を教えて欲しいです。

●市長

野垂れ死にはしません、それはもう。8050 問題というのは、ちょっと念のため、ご説明をしますと、80 歳の、例えば親御さんがですね、50 歳のお子さんの面倒を見ているような状況で、仕事を例えばしてなくて、家に例えば閉じこもっていたり、仕事してるケースもありますし、それぞれなんですけれども。ただ親が子供の面倒を、その年齢になっても見ざるを得ない状況が 8050 問題と一般的には呼んでいます。地域包括などには、もう御相談はいろいろいただいておりますよね。

○参加者 8

はい。相談しましたが、何と言うか、らちが明かないと言うか…です。

●市長

はい、当然何と言うんでしょう、いろんな選択肢があるので、その御本人の、もちろんお気持ちも、どうかというところは、ちょっとこちらで変えられるところではないので、そこを大事にしながらですけれども。ただ、日本の行政というのはですね、つくばにこれは限らずですけど、つくばも特に力を入れようとしています、やはりちゃんと福祉のいろいろな制度があって、例えば失業したら、その保障はありますし、福祉関係であれば、福祉のいろんな事業所がありますし、グループホームも、例えば住むところが厳しければグループホームもあります、私も今経営離れてますけど、ごきげんファームという農場を立ち上げてですね、今伊藤というのが一生懸命やっていますけれども、そこではまさに、なかなかこう、働くことに出られない人たちも、いろんな形で働きに来てくれています。給与もお支払いをしている。で、グループホームも今作っています。グループホームっていうのは、親亡き後安心をするためには、住む場所がどうしても必要なもので、そのグループホームを今整備してから、増えてきています。そういうふうに、いろいろな福祉制度の中で、本当野垂れ死なない社会を作っていくというのはすごく大事ですし、そういう制度はあるので、つくば市も正直、本当に事業者の質も様々というのが本音なんですけれども、ただ、そういうふうに皆さんがね、お子さんの心配をしないでいられるような仕組みは、しっかり市としては作っていきたいと思っていますし、実際に基本的には野垂れ死なないまちになっているというのが認識です。ただ、当然御心配いろいろあると思いますので、何か

具体的なことが出てくれば、例えば就職先のあっせんどうだとか、例えばグループホームをどうだとか、そういういろんなそれぞれの選択のタイミングでまた御相談いただければ、適切な社会資源につないでいくということはできると思いますので、そこは安心をしていただいて、お子さんを野垂れ死にさせはしませんので、御安心ください。

○参加者 8

ありがとうございます。自分勝手なジャイアンの研究者と言うかね、格好つけて言えばそういう感じの生き方をたぶんするかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。安心いたしました。

●市長

どういう状況でもやっぱり、ちゃんと制度として守るところは守るというのが、思いとしてはあります。

○参加者 9

こんにちは。なんかお子さんが山村留学に行かれてるっていう話なんかちょっと、また機会があったらゆっくり聞きたいなと思いました。よく失われた 20 年とか 30 年と言うんですけども、皆さんのね、お話の中でもいろんな課題とかあると思うんですけど、日本は頑張って、失ってもいないし、失くしてもないと思うんですね。この 20 年、30 年本当に頑張ってきたから、この今の平和で、安定した今っていうものがあるし、つくば市は本当にすごい可能性もあって、すごくバランスよく成長してきてるなって。で、ちょっと市長覚えてるかどうかわからないんですけど、第一子が生まれた頃に梅園公園と一緒に参加させていただいたことがあって、きっとこの人はいつか市長さんとか、お願いする人なんだろうなと思って、まさかこんなに早く市長さんになっちゃうとは思わなかったんですけど。それは置いて、で今度、今調査を行っている 120 ヘクタールぐらいですか、工業団地整備しようかっていう話あると思うんですけど、市長はどんな工業団地を整備したいと思ってるかをお聞かせください。

●市長

はい。どんなというと、どういう産業をということですか？

○参加者 9

そこを含めて開発の仕方で 120 ヘクタールと言うと産総研の事業所くらいの

広さになると思うんですね、ということは従来のような工業団地ではなくて、今お話しあったような環境とか、住まいとか、社会的…本当は自分、つくばに工業団地は必要無いと思ってるんですが、民間でスプロール現象みたいに開発するんだったらちゃんとソーラーパネルとか原発エリアとかもそうなんですけどそういうまちづくりの視点ですよね。

●市長

はい。そもそもですね、そもそも、やっぱり事業系の用地がもうつくばには足りていないという状況があります。いろんな事業者さんが、もっと用地が必要だというお話をたくさんいただいていますので、これを作っていくというのは、市の持続的な発展のためには、やっぱり住むだけではまちは成り立ちませんから、そこに仕事があるというのが、すごい大事ですので、そこで仕事をきちんと作っていかなくちゃいけない。そういうこともあって、ちょっと鈴木県議がさっきいらっしゃいましたけれども、鈴木県会とも御相談をしながらですね、どういう県と役割分担ができるかとか、そういうお話をしながら進めています。120ヘクタールに関して言うと、例えばこの産業に振るとか、そういう話を今の段階でしているわけではありません。ただ、環境配慮は絶対条件に当然なと思いますし、今もう民間の投資をする際も、やっぱりどういう環境配慮をしてるかという説明をしないと、そもそも投資家のお金も集められなくなってきましたので、どういう種類のものになるにせよ、環境配慮というのは徹底的になされることになるだろうというふうには思っています。本当は、例えばもう産業を絞ってですね、例えばこういう産業で徹底的にやるみたいなこともやり方もあります。ただ、それをするのがいいか、もう少し工業団地とか、工業団地というよりは今は何々パークというような言い方になっていきますけれども、そこがちょっとしたまちのような形になって、中にはいくらかのお店もあったりとかですね、そういう人が住めて、中には緑も普通にあって。だから、ただ工場が並んでいるというような開発ではなくて、緑地も確保され環境配慮もされ、そこで働く人にとっては良い環境ですし、そこに訪れることも、市民もできるような場所にしていくというのが理想的な形だろうと思っていますので、そういう開発にしていきたいなとは思っています。

○参加者 9

ウーブンシティとは言わないまでも、基本的に今までやっていただいた成果を引き続きみんなでやっていただければと思います。

●市長

なんかウーブンシティはもう何かなくなるみたいな話ですけど、トヨタが何かですね、まちを工場跡地につくると言っていて、結局どうなったんだろう。何か市長もあそこも変わったりしたのかな。つくば市はスーパーシティのモデル地区はつくば駅前に今つくる準備をしていますので…

○参加者 9

70 街区。

●市長

70 街区ですね。そこでしっかりとやっていこうと思っています。はい、ありがとうございます。

○参加者 10

先ほど、何か流星台の道路に関しまして、妻木で説明会を行ったというようにお話しましたよね。それはいつ行ったんですか。

●市長

道路ですね。説明会はもう 2 年前ですね。

○参加者 10

実は私道路にかかる方の友人なんです。もう 3、4 年説明会やっていないと、そう言われました。これは去年の 12 月です。

●市長

日付見ればわかります、はい。

○参加者 10

今年やったんですね。

●市長

今年はやってないです、今年は。もう最近は全地権者の方を 1 軒 1 軒訪問してお話をしました。だから多分御友人の方も、そのお話は受けているはずです。

○参加者 10

いや、聞いてないって言ってます。

●市長

いつの話ですか。

○参加者 10

去年の 12 月です。

●市長

その後です。全軒回ったのは。

○参加者 10

そうですか。

●市長

はい。

○参加者 10

私はいつも市長に、どうなってんですかって話してるけど、話はしてるけど、それでいつも終わりなんです。じゃあ状況を広報に載せてくださいと、お願いしてるんですよ。全く広報には載せておりません、市長は。たぶん何もしてないから載せらんないんだろうと思ってます。違いますか。

●市長

はい、さっきの参加者 1 さんの時はいらっしゃいました？

○参加者 10

いましたよ。

●市長

いらっしゃいました、はい。そういうことで進んでいますので、予算も取って今進めていますので。ただ、それをどういうふうに皆さんにお知らせするかというのは、進めるための最適な手法と。ただ、地元の皆さんには、そういう形で、本当に 1 軒 1 軒歩いて、職員がですね、調査について、今度は測量をしたら、また、ここは少し説明会っぽくなるかもしれませんけども、というのは進めていきますので。

○参加者 10

それじゃ、私は、この東岡ってところに住んでるんですよ。このセンターラインの無い道路が、朝夕の渋滞がすごいんですよ。ZOZOTOWN ができたり、流星台の住宅できたり。本当は例えば今からその道路に出るにしても、左右がかなり車来ます。だから出づらいです。日中ですが。朝夕方ほんとすごいんですよここ。だってもし妻木の人たちにそういう説明会をするのであれば、今度東岡の人たちにもそれを話してくれないですかね。

●市長

東岡の皆さんへの説明会ですか。

○参加者 10

そうです。

●市長

いずれにせよ地域の皆さんにまず御説明をして、その上で、どういう状況になってるかというのは必要だと思いますけども。確かに今のお話を聞いて思ったのは、どういうふうに妻木の中で事業が進んでるかを、東岡の方は御存知ないってことですよね。

○参加者 10

全く知らないです。

●市長

そうですよね。だから、何がいいですかね。区会回覧を回すとかもありかもしれないですよね。例えば、今こういう状況ですとか。そういう、確かに地域の、周りの関わる皆さんへの情報共有は確かに必要だろうなと。そうじゃないとね、何もやってないっていう話になるのは当然だと思いますので。ちょっと何か良い手法を考えて、今の状況を、さっき私が口頭でお話ししたようなことを、区会で共有してもらうようなこととかをちょっと考えていきたいと思いますが、いかがでしょう、そんな感じで。

○参加者 10

いや先ほど説明会が終わったって話だったんで、この意見は変えようかと思ってたんですけど、なんかやっぱ話が全然違うような感じだったんで話しさせてもらってます。

●市長

説明会が終わったというか、別にそれは、地域の皆さんと色々な話をして、そもそもこういう計画で、それについてこうっていうようなことをやって。それすら開催できないこの30数年だったわけなんです。それが、そういうことをやって、その次じゃあ個別に回ってと、そこでなって、実際個別に回って、そして色々な方と、また個別にさらにお話をして、今に至ってるということです。ただそこにはね、その個人のお名前とかが出て来てしまうと、それ以上はあれですけども。

○参加者 10

私、市議会議員の方にも何回もこの話を持ってあげてまして、この道路に関しまして、ぜひ定例会でも取り上げてくれと。全く取り上げてくれないんですよ。私が東岡の区長やってた時に、初めて取り上げてくれました。でも検討しますくらいで終わっちゃいました。全く定例会の議題にすらならなかったんです。全く。市長それで、混乱しちゃって申し訳ないんですが、市長と大井川知事の関係ってどうなってますか？

●市長

どうなってますか？いろいろ必要な話はしてますよ。お会いすることもありますし。

○参加者 10

正直言うと、私は、全く駄目だっていうことしか聞かれないんです。ですから、流星台から妻木に抜ける道はつくば市、土浦学園線に行くのは県、お互いにそっちが先だ、そっちが先だって、全く意識しないと、そんな感じで私は今日来ました。

●市長

それはですね、大井川知事がうんぬんということではなくて、ずっと県は、先に妻木金田線という話ですね。だから、個人的にどうこうっていう話ではないかなと思います。

○参加者 10

はい。ちょっと違う話しちゃって申し訳ないんですが、結局、皆さんすみません、こんな話しちゃってすみません。つくばの市長と、大井川知事は仲悪いんだ

よ。大井川知事は、茨城県も、特につくば市がある県南地方には、もう目を向けないと。

●市長

そうですか。

○参加者 10

特に水戸、仲の良い高橋市長がいる水戸。それから北、かすみがうら市より北、そっちに何か力を注いでいくって聞きました。以上です。

●市長

ありがとうございます。大変興味深い分析だと思いますので、まあ必要な話はね、鈴木県議も本当にいろいろ、間に入ってくれることもありますし、していますし、仲が良いとか悪いとかではなくて、まちとして必要なことは進めていきますし、私も他の高橋市長も含めていろんな話はしてますけれども、それぞれのまちには、それぞれのスタイルがあってですね、私が何かとりわけ仲が悪いかどうかというのはちょっと分かりませんが。はい、いろんなことを含めて、よく話はしてますし、また今度も県政要望で、来月だったかな、行って話をする事になっていますし、そう御心配いただくなくて大丈夫だと思います。ただ、それとは別でやっぱり大きな方針としてですね、学園線に抜ける道は、高低差があるというので、まず妻木金田線というのがね、県の方針には今なっていますので、ちょっとそれはお時間をいただくかなと思っています。すみませんが。

○参加者 10

ありがとうございます。

●市長

はい、ありがとうございました。

○参加者 10

最後にですね…

●市長

一応マイク使ってくださいませうかね。

○参加者 10

今年、つくば市の市議会議員選挙と市長選ありますよね。市長は、オンライン投票たしか目指してましたよね。ぜひやってください。全国で選挙がある度最低支持率ばかり出てるんで、ぜひつくばは優秀な支持率でお願いします。

●市長

いや、最初にお話したんですけど、やりたいし、それをやるというので、国に申請をしてきたんですけど、いろいろ規制緩和は進んでるんですけど、このインターネット投票についてはですね、国会でもなかなか動かなくてですね。例えば河野太郎大臣なんかも一生懸命やってくれて、河野さんがちょっとインターネット投票を、外国にいる日本人ができるようにしようと言っただけで、自民党の中がすごく大きな問題になったりして、動いていないという状況がちょっとあるんです。だからその手前の段階として、ここにさっき示したオンデマンド投票を、まずやりたいと思ってますので。ただ、もうつくばのシステム使えばそのままもうできますので、何とかこれを働きかけていきたいと思ってます。頑張ります。はい、ありがとうございます。

○参加者 11

私は、今この地区の道路の件がお話ありましたけれども、市長さんとは、何度もいろいろお会いしてるんですけど、最後に1つだけお願い、今ありましたことなんですけど、当然妻木とは丁寧に接触しながら進めるというのは何度も聞いてますし、それから直接具体的にお話できるレベルにはまだなっていないんだというような、もう市の担当の方からは聞いてはいるんですが。ただ何て言うんですか、例えば都市計画道路という言葉であったり、それから今お話があったように、この脇を通るのは県の範疇だよだとか、それから妻木の方に向かうのは市がやるんだと。例えばその辺であったり、実際に今住まわれてる、流星台、さくらの森、春風台含めて、それから周りの周辺集落ですね、その辺の人が一切その状況すら分からない。で、当然その都市計画道路に選定されてるわけですから、市としては、その具体的というよりも、こういう方向では考えてるんだと、こういう位置付けの道路なんだよと、それからつくば市にとって、こういう意味づけで重要な道路なんだというようなことを、先ほどありましたように、どういう形がいいかはその担当部署なりで考えてもらいたいんですが、地域の各エリアに伝わるような形で早急にやっていただかないと、また小学校もできると言ってますから。タイミングとしては非常に良い時期だと思うんですね。ですからぜひその辺を、市の方の担当部署にお話いただいて、早急にこういう形での会議でもいいですし、何か書面なりパンフレットでもいいですから、ぜひすぐにでも対応して

いただきたいと。それ1つだけお願いします。

●市長

ありがとうございます。さっきのお話でもそれが必要だと思いましたので、ちょっとどういう形が一番良いか、よく相談した上で、できるだけ早めに何らかの手段で、お話をしたいなと思います。ありがとうございます。

○参加者3

タウンミーティングはもうこれで終わりですか。

●市長

そうですね。あとは、オンラインのタウンミーティングが1回あって、もう今、だから、他の6地区が順繰りに来て、ここで地区としては最後で。あとオンラインとかと中高生とか、いくつかパターンあるんですけど。

○参加者3

また来年？

●市長

そうですね、来年ですね。

○参加者3

今年中は？

●市長

今年中は…そうですね、ちょっと年に一応1回でやらせていただいているので。ちゃんと御意見まとめて、それを来年度予算に何が反映させるかとかやるので。

○参加者3

来年はまた涼しくなったらくらいにやるといいんじゃないですかね。

●市長

来年も？え？

○参加者 3

来年は10月とか。6月じゃなくて10月。

●市長

でもね、この時期にやらないと、来年度予算に反映するのがだんだん大変。まだ年度始まったばかりですけど、行政っていうのは、もう今のうちから、じゃあ来年新規で何やろうかっていう検討を中で始めるんですね。まず7月、8月ごろにそういう調整をして、10月頃にある程度の予算を組んでいくっていう作業があるので、10月だともう入れ込むのがちょっと大変なっちゃうんですね。

○参加者 3

話し合いは良いかなと思って。

●市長

話し合い？

○参加者 3

そういう話をするのもいいかなと思います。その予算が通るとかどうかではなくて。

●市長

もちろんそうですね。

○参加者 3

お願いします。

●市長

ねえ。いや、そうですね。

○参加者 12

ちょっといいですか。

●市長

はい、どうぞ。御質問ですかね。

○参加者 12

要望です。

●市長

要望ですね、はい伺います。もちろんです。

○参加者 12

今、五十嵐さん、こういったタイミングでタウンミーティングやってくださると非常にありがたいことで。

●市長

ありがとうございます。

○参加者 12

五十嵐さん非常によく全体を知っていて、非常に細かい話にも応じていらっしゃるってですね、非常に良いと思います。

●市長

ありがとうございます、褒めていただいて。

○参加者 12

そうは言ってもですね、やっぱり一人の人間のキャパというのは限界があるんですよ。この限られた時間の中で、なかなかやっぱり議論にはならないと。やっぱり一人一人の職員さんが責任を持った議論をするということが、一番やっぱり大事なんじゃないかと。まあ去年も同じこと言ったんですよ。だけど、なかなか担当の職員さんが、やっぱり市民と情報を共有して、対等な議論をするというふうになっていないんですね。ですから、どんなに頑張っても五十嵐さんは、やっぱりそう何回もこういったことはできないし、一人一問一答一項目だとそういうのもやむを得ないですね。だけど、やっぱり 2,700 人いる職員一人一人がですね、やっぱり市民と情報を共有して、対等な議論をするっていうことを、今後徹底するようにお願いしたいと思います。以上です。

●市長

はい、そうですね、なかなか職員一人一人が皆さんとまた議論をするというのも、どういう形なのかなというのはありますが。ただ、それぞれの職員がやっぱり専門意識を持ってですね、いろんな取組をしていますので、市民の皆さんの声

というのもしっかり聞くようにしたいと。さっきの陸上競技場の話なんかをやっぱり聞くとですね、もっと本当に何ていうかこう、皆さんからまずは話を伺うということ、もう少し、何か職員も、ラフにできるといいなというのは感じましたので、そういうことを含めてですね、はい、どういうことができるのかというのは一旦置いておきますけども、いろいろ職員も頑張ってるので、ぜひ御理解いただければと思います。